

9月16日(土) 賛助会員発表第3室(733)

『漫画人』 — 発信型英語教育教材として

茂木 弘道 (世界出版研究センター)

1. 『漫画人』とは：

日本の漫画を基本的な素材にした、日本語学習・日本文化理解のための月刊誌。

1990年アメリカで発刊され、現在全米に3万人余りの読者を有している。

日本でもほぼ同時発売され、在日外国人に広く読まれると同時に、ユニークな英語学習書として広まり、アメリカと同じくらいの部数がでている。(その他、イギリス・カナダ・ドイツ・オーストラリア・NZ・シンガポールでも販売されている。)

2. 『漫画人』の構成：

日本の代表的な人気マンガを英語に対訳し、更にその背景説明、語彙・文法の注をつける、という形をとっている。

マンガは、1コマ漫画(朝日新聞等の政治風刺マンガ)・4コマ漫画・中長編漫画と現代日本漫画を代表する構成になっているが、そこから現代日本が見えてくるということを狙っている。マンガの選択はアメリカ人編集スタッフが行っている。漫画の他に日本を様々な角度から論ずる、特集記事も毎号掲載されている。

*掲載マンガの例

4コマ：OL進化論、サラリくん、オバタリアン、タナカくん、ガルシアくん
いしいひさいち、オジャマします、べらんめい父ちゃん、etc.

ストーリー・マンガ：

課長島耕作、人間交差点、釣りバカ日誌、沈黙の艦隊、ナニワ金融道
クレヨンしんちゃん、火の鳥、いまだきのこども、What's Michael、
大東京ピンボー生活マニュアル、うるせいやつら、銀河鉄道999 etc.

American comics(若干)：The Far Side, Calvin & Hobbes, Shoe.

3. 『漫画人』のアメリカにおける読者層：

Student(主に大学生)	25%
Educator(主に大学先生)	13
Technical/Professional	36
Management	15
その他	12

大学の日本語クラスでテキスト・サブテキストとして使われるケースがふえている

例：ハーバード・UCLA・ミシガン・ブリグハム&ヤング・MIT etc.

4. 『漫画人』の英訳水準：

日本語からの英訳は、基本的にアメリカ人によってされている。日本人のチェックはあるが、最終チェックは Translation Editor の Wayne Lammers, Ph.D. #が行っている。

Winsconsin 大学の助教授をしていたときには、全米日本語教師協会(ATJ-Association of Teachers of Japanese)の事務局長をつとめた。1993年には、庄野順三の小説の訳で PEN West Literary Award を受章してる。

アメリカの大学で広く日本語教材として使われていることから、英訳水準の高さは想像できるが、在日外人で日本語に強い人々からも非常に評価が高い。

9月16日(出) 賛助会員発表第3室(733)

例えば、Washington Post の東京支局長の Tom Reid 氏は次の様な推薦文を寄せている。

” … MANGAJIN offers real Japanese language in real situation. Plus, these manga are fun to read and translations are incredibly good. ”

5. 『漫画人』を英語教材として使うメリット：

他の教材には見られない様々なメリットが期待できる。

- 1) ホンネの日本語をどのような英語にすればそのニュアンスが伝わるのか、という角度から英語を学べる。(マンガは本音の会話表現の宝庫)
- 2) ストーリーのあるビジュアル表現とともに言葉を学ぶことにより、記憶がより容易になり、また使われる状況をよく理解しながら覚えることができる。
- 3) アメリカの大学で使われている教材であり、また日米でかなりの読者がいる雑誌であるので、時代性・国際的話題性という要素も持っている。
- 4) マンガという学生の興味をひく素材をつかっている。また、アメリカの読者を見てもわかるように、取り上げられているマンガは国際的にも通用する、レベルの高いマンガである。
- 5) 訳につけられている注を読むことにより、語学的に突っ込んだ学習もできる。

このように様々なメリットが存在するが、本質的には、

感じていること、思っていること、考えていることをどう英語に表現すればよいのか、それを English speaking の人々に伝えられるのか、という方向から英語をトレーニングするのに最適の教材である、ということである。

会話力の不足ということが、日本の英語教育の問題点としてしばしば指摘されるが、これは単に会話の問題ということよりも、考えていることを英語で表現する能力の問題であると捉えるべきであろう。

発信型英語教育こそが求められているのではないだろうか？

『漫画人』は、発信型英語教育の教材として、多様な活用の可能性を有しているものと考ええる。

授業用の手引き書を現在作成中である。

6. その他

- ・ 出版社： MANGAJIN, INC. (USA)
- ・ 日本発行所： (株) 世界出版研究センター
107 東京都港区南青山2-18-9 TEL 03-3479-4434 FAX 03-3479-5047
- ・ 変形A4版 96ページ 年10回刊
- ・ 1部 950円(洋書店にて販売)
- 年間購読料： 9250円(送料込)(毎号付録「使える表現集」付)